

3 専門分野

1) 基礎看護学～老年看護学

科目名	単位数	時間数
基礎看護学	11	300
地域・在宅看護論	6	120
成人看護学	6	180
老年看護学	4	105

授業科目	看護学概論	担当講師	嶋宮 典子	受講時期	1年生
				単位数 (時間数)	2 (45)
【学習目標】					
1 看護の歴史の変遷とさまざまな理論家の看護のとらえ方や看護の定義から看護とはを考える。					
2 看護の対象である人間を成長発達する存在としてとらえ、生物体と生活体の統一体として理解する。					
3 看護の機能と役割について学び、看護の専門性について理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2	1 看護とは	1) 看護の定義 (1) ナイチンゲール (2) 科学的看護論 (3) 看護職能団体による看護の定義			講義 GW
3～6	2 看護の対象の理解	1) 看護のための人間論 (1) 人間は生物体・生活体の統一である (2) 生活過程の本質 (3) 対象の特殊な生活過程			講義
7～10		2) 人間の「こころ」と「からだ」 (1) ホメオスタシス (2) ストレス (3) 「こころ」の理解に役立つ理論 ア) マスローの欲求段階説 イ) 危機理論			GW 講義
11～12		3) 生涯発達しつづける存在としての人間 (1) 身体発育 (2) 心理・社会的側面における発達			講義
13～14		4) 人間の「暮らし」の理解 (1) 生活者としての人間 (2) 看護の対象としての家族・集団・地域			講義
15		5) プロセス・レコード (1) 対象の主観に近づく (2) 看護の対象と自己の言動のつながり			講義 GW
16～23	3 健康のとらえ方と国民の健康状態	6) 看護の対象に「三重の関心を注ぐ」とは 1) 筆記試験 2) レポート 看護覚書から出題			GW 講義
24～27	4 看護師の仕事	1) 健康とは何か 2) 健康の関連要因 3) 社会の変遷と健康観の変化 4) 人々の生活と健康に関する統計			講義 GW
28～33	5 看護における倫理	1) 職業としての看護 2) 看護職の養成制度と就業状況 3) 看護職者の教育とキャリア開発 4) 看護職者の養成制度・研修制度の課題			講義 GW
34～38	6 看護の提供の仕組み	1) 倫理とは 2) 専門職業人と職業倫理 3) 看護者の倫理綱領			講義
39～40	7 看護の歴史	1) 看護の提供の場 2) 看護をめぐる制度と政策 3) 看護サービスの管理 4) 医療の質の保障			講義
41～43	8 看護とは (まとめ)	1) 看護の変遷 (1) 看護の原点 (2) 看護の語源 (3) 看護の歴史			講義
44～45		2) 看護観 (1) 看護の理論家による定義 (イ) 看護観			GW 講義
評価方法	講義終了後の筆記試験内容、講義への参加態度、随時レポートなどから総合的に評価する。 1 単位 15 時間 筆記試験 80 点、レポート 20 点 1 単位 30 時間 筆記試験 80 点 レポート 20 点				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学 [1] 医学書院 ② 薄井坦子 ナースが見る人体 講談社 ③ 薄井坦子 ナースが見る病気 講談社 ④ 薄井坦子 科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会 ⑤ ナイチンゲール看護覚え書—看護であること・看護でないこと 現代社				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	基礎看護学技術論Ⅰ	担当講師	田村 美幸	受講時期	1年生
			江藏 祥平 他	単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】 看護の目的論・対象論・方法論をベースに看護実践のための方法論を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2	1 科学的看護論	1) 目的論 (1) ナイチンゲールの看護の定義 (2) 人間の生命力とは (3) 人間の一生と健康現象 (4) 看護の目的意識 2) 対象論 (1) 生物体・生活体の統一体 (2) 人間の生活過程本質 (3) 特殊な生活過程 3) 方法論 (1) 看護過程 (2) 看護過程と看護者の能力			講義
3～24	2 実践方法論	1) 客観的資料 (1) 情報源、情報収集の方法 (2) 客観的資料を整理する意味 (3) 看護の視点 2) 全体像の把握 (1) 現象レベルの全体像(全体像モデル) (2) 日常生活力アセスメント (3) 表象レベルの全体像 (立体像モデル＝対象特性) 3) 生物体の必要条件 4) 日常生活の規制 5) 生活体の反応 (1) 生活体の反応とは (2) 追体験・観念的追体験 6) 日常生活力アセスメント 7) 看護上の問題 (1) 看護上の問題 (2) 看護上の問題を考える視点 8) 看護の必要性 9) 問題解決の方向性 10) 生命力アセスメント 11) 看護師の夢(対象の夢) 12) 看護計画 13) 看護の実施・評価 (1) 看護計画に基づいて実施 (2) 実施したことを目標に照らして評価			講義 個人
25～30 江藏					GW 演習
評価方法	看護過程展開及び授業への取り組み姿勢について評価表を用いて評価する。 (個人ワーク：80点 GW・演習：20点)				
教科書	①薄井担子 科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会 ②系統看護学講座・専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ③薄井担子 何かなぜ看護の情報なのか 日本看護協会出版会 ④薄井担子 ナースが視る病気 講談社				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	基礎看護学技術論Ⅱ	担当講師	柳谷 広枝 秦 恵子 武田 耕一郎	受講時期 単位数 (時間数)	1年生 1 (30)
【学習目標】					
1 看護におけるコミュニケーションの意義、基礎知識、方法を理解する。					
2 看護における観察の意義、目的、方法を理解する。					
3 看護における記録・報告の意義、基礎知識、方法を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～10 柳谷	【 看護場面に共通する技術 】 1 コミュニケーション	1) コミュニケーションの意義 2) コミュニケーションの成立過程 3) インフォームドコンセント 4) コミュニケーションの方法 5) コミュニケーション技術 6) コミュニケーション障害への対応			講義 演習 (2h)
11～24 秦	2 観察	1) 観察の意義 2) 観察の方法 3) 看護するための観察 4) ヘルスアセスメントとは 5) フィジカルアセスメントとは 6) 観察の技術 (1) 身体計測 (2) 消化器系(腹部)のフィジカルアセスメント (3) 循環器系・呼吸器系のフィジカルアセスメント			講義 演習 (6h)
25～28 武田	3 記録・報告	1) 記録・報告の意義 2) 記録の種類と内容 3) 看護記録に必要な要素と条件 4) 看護記録の管理の仕方と法的目的 5) 看護記録の記載 6) 報告の方法 7) 報告に必要な要素と条件 8) 看護診断			講義
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 コミュニケーション (35点)、観察 (50点)、記録・報告 (15点)				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 MEDIC MEDICA ③ 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 MEDIC MEDICA ④ 薄井坦子 ナースが視る人体 講談社 ⑤ 薄井坦子 ナースが視る病気 講談社 ⑥ 薄井坦子 科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	基礎看護学技術論Ⅳ	担当講師	江藏 祥平	受講時期	1年生
			伊藤 喜美江	単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 健康にとって環境とはなにかを理解し、環境をととのえるために必要な知識・技術を習得する。					
2 健康にとって労働・性とはなにかを理解できる。					
3 健康にとって運動・休息とはなにかを理解し、運動・休息をととのえるために必要な知識・技術を習得する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～12 江藏	【社会関係を維持発展させる過程】 1 環境	1) 健康にとっての環境 2) 看護の視点 3) 病床環境の調整 (1) ベッドメイキング (2) 病床整備 4) 臥床患者のシーツ交換			講義 演習 〈4h〉 〈2h〉 〈2h〉
13～14 江藏	2 労働	1) 健康にとっての労働 (学習・娯楽) 2) 看護の視点 3) 社会の中での役割 4) 生きがい			講義
	3 性	1) 健康にとっての性 2) 看護の視点 3) 家族の形成			講義
15～28 伊藤	【生活習慣を獲得・発展させる過程】 1 運動	1) 健康にとっての運動 2) 看護の視点 3) 基本的活動の基礎知識 (ボディメカニクスを含む) 4) 体位と安全・安楽 5) 同一体位による弊害 6) 体位変換 7) 移動と移送			講義 演習 〈6h〉
	2 休息	1) 健康にとっての休息 2) 看護の視点 3) 休息の援助の基礎知識 4) 休息の援助 (1) 睡眠を整える (2) 安楽確保の援助			講義
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 環境・労働・性 (50点)、運動・休息 (50点)				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ② 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ③ 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 MEDIC MEDICA ④ 薄井坦子 ナースが視る人体 講談社 ⑤ 薄井坦子 ナースが視る病気 講談社 ⑥ 薄井坦子 科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	基礎看護学技術論V	担当講師	江藏 祥平	受講時期	1年生
			伊藤 喜美江	単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】 健康にとって食・排泄とはなにかを理解し、食・排泄をととのえるために必要な知識・技術を習得する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1~12 江藏	【生活習慣を獲得・発展する過程】 1 食	1) 健康にとっての食 2) 看護の視点 3) 食行動 4) 消化・吸収および排泄機能 5) 栄養状態の評価 6) 栄養摂取の援助 (1) 食事介助 事例：全盲、両上腕骨折 (2) 経管栄養法			講義 演習 <4h>
13~28 伊藤	2 排泄	1) 健康にとっての排泄 2) 看護の視点 3) 摂取と排泄のバランス 4) 排泄行動 5) 排泄の援助 (1) 尿・便器の使い方 (2) 浣腸 (3) 摘便 (4) 導尿 (5) 失禁している対象の陰部洗浄・オムツ交換			講義 演習 <8h>
29~30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 食 (45点)、排泄 (55点)				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ② 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ③ 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 MEDIC MEDICA ④ 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 MEDIC MEDICA ⑤ 薄井坦子 ナースが視る人体 講談社 ⑥ 薄井坦子 ナースが視る病気 講談社 ⑦ 香川芳子 食品成分表 2022「改訂」女子栄養大学出版部				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	基礎看護学技術論Ⅵ	担当講師	武田 耕一郎 江藏 祥平	受講時期	1年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 生命を維持する過程を整える技術を習得する。 2 基礎看護技術で学んだ技術を統合して習得する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～14 武田	【生命を維持する過程】 1 循環・呼吸・体温	1) 循環 (1) 健康にとっての循環の意味 (2) 看護の視点 (3) 血圧の調節の仕組み (4) 血圧測定 2) 呼吸 (1) 健康にとっての循環の意味 (2) 看護の視点 (3) 呼吸の調節のしくみ (4) 呼吸測定、動脈血酸素飽和度測定 3) 体温 (1) 健康にとっての体温の意味 (2) 看護の視点 (3) 体温の調節の仕組み (4) 体温測定 4) 循環・呼吸・体温を整える援助 (1) 吸引 (2) 酸素療法 (3) 電法			講義 演習 <4h> 演習 <3h>
15～22 江藏	2 統合演習 統合演習Ⅰ	1) 事例の対象への清拭・寝衣交換			演習
23～29 江藏	統合演習Ⅱ	1) 事例の対象への状態観察(バイタルサイン・フィジカルアセスメント)、車椅子移送、ポジショニング			演習
30	筆記試験				
評価方法	1 バイタルサイン 講義終了後の筆記試験(35点)、バイタルサイン測定の実技試験(15点) 2 統合演習 統合演習Ⅰ 実技試験(25点)、統合演習Ⅱ 実技試験(25点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ③看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 MEDIC MEDICA ④看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 MEDIC MEDICA ⑤看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 MEDIC MEDICA				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	基礎看護学技術論Ⅶ	担当講師	柴田 麻未	受講時期	1年生
				単位数 (時間数)	1 (15)
【学習目標】					
1 主な健康の段階にある対象の生活を知り、看護の原則を学ぶ。 2 痛みのある対象への看護を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容		学習形態	
1～10	1 健康の段階別にみる対象の生活と看護	1) 急性期 (1) 急性期とは (2) 対象の生活に及ぼす影響 (3) 急性期の看護 2) 慢性期 (1) 慢性期とは (2) 対象の生活に及ぼす影響 (3) 慢性期の看護 3) 回復期 (1) 回復期とは (2) 対象の生活に及ぼす影響 (3) 回復期の看護 4) 終末期(危篤・終末時・死亡時) (1) 終末期とは (2) 終末期の対象の生活と看護 (3) 終末期の対象の心理過程と看護 (4) 危篤・終末時の状態と看護 (5) 危篤・終末時の家族の心理と看護 (6) 身近な人を亡くした家族の心理と看護 5) リハビリテーション (1) リハビリテーションとは (2) 対象の生活に及ぼす影響 (3) リハビリテーションにおける看護		講義	
11～14	2 痛みのある対象への看護	1) 痛みとは 2) 人間にとっての痛みの体験 3) 痛みに影響する要因 4) 痛みのメカニズム (1) 痛みの種類 (2) 痛みの理論 5) 痛みに対する基本的治療 (1) 痛みの一般的治療 (2) がんの痛みに対する治療 ①WHOがん疼痛の基本原則 ②WHO3段階除痛ラダー 6) 看護活動 (1) 痛みのアセスメント (2) 痛みの緩和のための援助 (3) 補完・代替療法		講義	
15	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 健康の段階別(60点)、痛みのある対象への看護(40点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 臨床看護総論 医学書院 ②系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 ③系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	基礎看護学技術論Ⅷ	担当講師	江藏 祥平	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】 対象の生活を理解し、診断・治療が効果的に行われるための看護技術を習得する。					
時間	主 題	学 習 内 容		学習形態	
1	1 診断・治療と看護	1) 診断・治療を受ける対象の看護		講義	
2~4	2 創傷管理	1) 創傷処置 2) 包帯法		講義 演習 <2h>	
5~20	3 薬物療法と看護	1) 薬物療法における看護師の役割 2) 医療事故防止 3) 与薬の方法 (1) 経口薬 (2) 外用薬 (3) 注射法 ①筋肉内注射 ②皮内注射 ③皮下注射 ④静脈内注射 ⑤点滴静脈内注射		講義 演習 <10h>	
21~22	4 輸血療法と看護	1) 輸血の意味 2) 輸血の方法		講義	
23~28	5 検査と看護	1) 検査の意義 2) 検査を受ける対象への援助 3) 検査の種類 (1) 生体検査 (2) 検体検査		講義 演習 <2h>	
29~30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ② 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 ③ 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 MEDIC MEDICA ④ 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 MEDIC MEDICA				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	看護研究	担当講師	嶋宮 典子 秦 恵子	受講時期	3年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 看護研究の基礎を学び、看護専門職者としての研究の意義を理解する。					
2 研究発表までの一連を体験することで、生涯学習の基礎とする。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2 (秦)	1 看護研究の意義・目的	1) 看護研究の歴史 2) 看護研究の意義と目的 ・研究成果の活用とその重要性			講義
	2 看護研究における倫理	1) 研究対象の人権と看護研究倫理指針 2) 研究論文における倫理的配慮			
	3 看護研究の方法	1) 研究方法 (1) 研究の4つの種類 ①調査研究②事例研究③実験研究④文献研究 (2) 研究デザインと概念枠組み (3) 量的・質的研究 (4) 研究に必要な用語			
3～6 (嶋宮)	4 研究計画書	1) 研究計画書の作成方法 (1) 研究テーマの決定(問題の焦点化) ・エピソード・疑問・関心 (2) 文献検討 ①文献の種類 ②文献検討と整理の方法 ③文献検討の実際 (3) 研究目的の明確化 (4) 研究デザインの決定 (5) 研究方法の検討			講義 個人
7～10	5 事例研究論文の構成・発表	1) 事例研究 論文のまとめ方 (1) 論文各部分の記載方法 ①表題のつけ方 ②はじめに ③研究方法 ④結果 ⑤考察 ⑥結論 ⑦文献 ⑧執筆規程 2) 研究発表 (1) 発表方法・質疑応答 (2) 発表時のマナー			講義
11～24	6 研究活動の実際	1) 事例研究の実際 (1) 研究計画書作成 (2) 原著論文作成 2) 研究発表の実際			個人
25～28					
29～30	7 これからの研究活動	1) 学生の研究に対する講評 2) 看護研究の社会的要請と看護研究の発展 3) 学会・研究論文からみた現状 4) 今後期待される看護研究の分野			講義
評価方法	研究活動を通して提出された研究計画書及び研究活動への取り組み方、発表を総合して評価する。				
教科書	①黒田裕子 看護研究 Step by Step 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野I 看護学概論 基礎看護学 [1] 医学書院 ③松本孚 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅰ	担当講師	植田 さとみ	受講時期	1年生
				単位数 (時間数)	1 (15)
【学習目標】					
1 人間は生活を営む存在であり、生活様式を自在につくりだす存在であることを理解する。					
2 個人に備わっている生きる力は、生活の場の条件によって影響を受けることを理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～6	1 人間の生活	1) 生活者としての人間 (1) 生物的な生命活動としての生活 (2) その人らしい日常生活を送るための行動様式 (3) 家族や社会においてどのような役割を果たしているのか (4) 暮らしをたてるために必要な生計などに焦点をあてた経済的側面 2) ライフステージと人々の生活 (1) 子ども (2) AYA 世代の生活 (3) 壮年期の生活 (4) 老年期の生活 (5) 終末期の生活 3) 世帯構成別の生活 (1) 1人暮らし (2) 夫婦のみの生活 (3) ひとり親と子どもの生活 (4) 多世代の生活			講義 講義
7～8	2 生活と健康	1) 生活をとらえる視点 (1) 生活時間 (2) 生活習慣 (3) 生活習慣病 (4) 生活と疾病・障害の予防 2) 支え合って生きるということ (1) 家族 (2) 仲間 (3) 近隣の人々 (4) 学校や職場			講義
9～14	3 生活の基盤としての地域の理解	1) 生活と地域 (1) 地域の定義 (2) 地域の多様性 (3) 地域包括システムと地域共生社会 2) 紋別市の生活環境調査 (1) 食材等の購入・飲食店数 (2) 就業先(産業) (3) 病院数 (4) 薬局数 (5) 移送業数 (6) 幼稚園、保育所 (7) 小学校、中学校、高等学校、その他			GW
15	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 70 点、課題提出 30 点				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 医学書院 ② ナースが視る病気				
参考書	授業の中で提示する				

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ	担当講師	中根 健太 植田 さとみ 保健師	受講時期	1年生
				単位数 (時間数)	1 (15)
【学習目標】					
1 地域・在宅看護の対象となる人とその家族を理解する。					
2 地域の特性と課題を理解し、地域で行われている保健活動について理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～6 中根 (2)	1 地域・在宅看護の対象者	1) 地域・在宅看護論の対象者 (1) 健康状態 (健康な人々～終末期) (2) 発達段階 (胎児期～老年期) 2) 発達段階別 3) 地域で生活している人々には様々な生活があることを理解する。 (1) 人生曲線を記載してもらい、その時の出来事を教えてもらう (2) 普段使用している交通機関 (3) 買い物や仕事は家からどのくらいのところまで出かけるか (4) どのように買い物しているか			講義 GW
7～12	2 看護の対象としての家族	1) 家族の変遷 2) 看護における家族の定義 3) 家族を理解するための基礎理論 (1) 家族発達理論 (2) 家族システム理論 (3) 家族ストレス対処理論 4) 家族看護の目的			講義 GW
13～14 保健師	3 地域住民に対する保健活動	1) 地域住民に対する保健活動 (1) 紋別市の特性 (2) 紋別市の住民の健康課題 (3) 紋別市における保健活動の実際 (4) 多職種、施設との連携			講義
15	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 70点、課題提出 30点				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 医学書院 ② 系統看護学講座 専門基礎分野 社会福祉 健康支援と社会保障制度 [3] 医学書院				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅲ	担当講師	関 建久 植田 さとみ	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (15)
【学習目標】					
1 保健・医療・福祉の連携及び、地域のサービスシステムの活用について理解する。 2 在宅ケアにおけるコーディネーターとしての看護師の機能と役割を理解する。 3 在宅看護にかかわる法令・制度を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～4 関	1 地域包括システムと多職種連携	1) ケアマネジメントと社会資源の活用 2) 地域における多職種連携 (1) 在宅における連携の特徴 (2) 医師との連携 (3) 地域社会資源との連携 (4) ネットワークづくり			講義
5～7 植田	2 療養の場の移行に伴う看護	1) 患者・家族の意志決定支援と調整 2) 退院支援・退院調整 (1) 退院支援にかかわる多職種 (2) 退院支援のプロセスと退院支援に関するしくみ 3) 入退院時における医療機関との連携 4) 入退所時における施設との連携			講義
8～14 植田	3 在宅看護にかかわる法令・制度	1) 在宅看護にかかわる法令・制度 (1) 介護保険制度 (2) 医療保険制度 (3) 障害者総合支援法 (4) 難病法 (5) 医療介護総合確保推進法 (6) 医療法 (7) その他のおもな公費負担医療			講義
15	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護の基盤	地域・在宅看護論 1	医学書院	
	② 系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護の実践	地域・在宅看護論 2	医学書院	
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅰ	担当講師	植田 さとみ 山本 真実 高野 志保	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 訪問看護ステーションにおける訪問看護サービス内容と提供方法について理解する。 2 基本的な訪問技術について習得する。 3 基本的な看護技術を創意工夫し、在宅療養者に適した援助を習得する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2 植田	1 在宅看護の機能と役割	1) 在宅看護の特性 2) 自己決定の支援 3) 訪問看護			講義
3～5 植田	2 在宅看護の展開	1) 訪問看護制度の創設と発展経緯 2) 訪問看護の制度 (1) 訪問看護の利用者と訪問回数 (2) 訪問看護ステーションに関する規定 (3) 訪問看護の利用までの手順 (4) 訪問看護の費用 3) 訪問看護サービスの提供 4) 介入時期別の看護の特徴			講義
6～8 植田	3 在宅看護と権利保障	1) 在宅療養者の権利保障 (1) 対象者のもつ権利 (2) 権利擁護			講義
9～10 山本	4 基本技術	1) 訪問の準備と面接技術 2) 訪問マナー（コミュニケーション含む） 3) 訪問看護における連絡・報告、記録 4) 訪問マナーの実際			講義
11～28 高野	5 生活援助技術	1) 在宅で求められる看護技術 (1) 療養者の健康状態のアセスメント (2) 日常生活のアセスメント 呼吸、食生活、排泄、移動・移乗、清潔 ＊クモ膜下出血の事例を用いてアセスメント (3) 自宅にある物品を工夫した援助の実際			講義 GW 演習
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護の基盤	地域・在宅看護論 1	医学書院	
	② 系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護の実際	地域・在宅看護論 2	医学書院	
	③ 系統看護学講座 脳・神経	成人看護学 7	医学書院		
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅲ	担当講師	高野 志保 浅岡 里美	受講時期	3年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】 地域で療養生活を送る対象とその家族に対する、その人らしい生活を尊重した看護過程について理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～22 高野	1 地域・在宅看護における看護過程の展開	1) パーキンソン病を抱えながら生活する人への看護過程の展開 (1) 全体像の把握 (2) パーキンソン病を抱えながら生活する人が利用可能な社会資源 (3) 家族も含めた療養上の課題の明確化 (4) 看護計画の立案 2) 療養者・家族への指導 (1) 指導計画の立案 3) 訪問看護の実施 (1) 日常生活援助 (2) 家族の介護力に応じた支援 (3) 療養者・家族への教育的支援 (4) 社会資源の活用・多職種との連携 (5) 看護計画の評価、修正 4) 生活の場を想定した援助の実施・評価			演習 RP
23～30 浅岡	2 地域における母子支援	1) 保健センターにおける母子支援 (1) 乳幼児健康診査 (2) 新生児訪問計画			講義 GW
評価方法	グループワークは、看護過程の展開と個人レポート（評価表を用い個人70点、グループ30点）および授業態度を総合し評価する。				
教科書	① 系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護の基盤	地域・在宅看護論1	医学書院	
	② 系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護の実践	地域・在宅看護論2	医学書院	
	③ 系統看護学講座 専門分野	母性看護学各論	[2]	医学書院	
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	成人看護学概論	担当講師	増子 真理江	受講時期	1年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 ライフサイクルにおける成人各期の特徴と発達課題を学び、統合的に対象を理解する。 2 ヘルスプロモーションの概念について理解し、大人のヘルスプロモーションを促進する看護を学ぶ。 3 成人の健康に影響を及ぼす要因を理解し、成人各期における健康管理の重要性を学ぶ。 4 保健医療福祉の動向を理解し、他職種との関連の必要性和看護の役割を学ぶ。 5 成人期にある人に有効な理論の概念を理解し、どのような場面で使用されるのかを学ぶ。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1	1 成人看護学の意義	1) 成人看護学の基本的な考え 2) 成人看護学の構成 3) 成人看護学と他の看護学との関連			講義
2~8	2 成人と生活	1) 成人期とは 2) 成人各期の発達段階の特徴 3) 成人の生活(ライフスタイル、仕事、家族) 4) 成人各期の発達課題と理論 (1) エリクソン (2) ハヴィガースト (3) レビンソン			講義 GW (4h)
9~10	3 成人の生活と健康	1) 健康の概念 2) 保健・医療・福祉システムの概要 3) 保健・医療・福祉システムの連携			講義
11~14	4 ヘルスプロモーションと看護	1) ヘルスプロモーションとは 2) ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 3) 地元で行われている保健活動を調べる			講義 個人 ワーク
15~16	5 健康をおびやかす要因と看護	1) 健康バランスの構成要素 2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 3) 生活行動がもたらす健康問題と予防			講義
17~22	6 成人の健康の状況	1) 人口構造の変化 2) 衛生の主要指標 (1) 死亡の動向 (2) 平均余命・死亡分析 (3) 健康状態と受療状況			講義
23~28	7 成人期の援助の基本	1) 成人教育学 2) 病みの軌跡 3) 健康信念モデル 4) セルフケアと自己効力 5) エンパワメント-エデュケーション			講義
29~30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験(80点)、個人ワークによるレポート(20点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 ②舟島なをみ 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 ③薄井坦子 ナースが視る病気 講談社 ④厚生指標 増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	成人看護学援助論Ⅰ	担当講師	柴田 麻未 小山 亜依 太田 千春	受講時期	1年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 慢性期疾患をもつ対象の特徴と健康問題を加齢・生活・発達段階との関連から理解する。 2 健康障害を持ちながら、その人らしい生活が営めるように対象を支える看護を学ぶ。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～3 柴田	1 生活の再構築が必要な対象の特徴	1) 慢性期とは 2) 慢性期にある疾患とその治療の特徴 3) 慢性期にある人と家族の特徴			講義
4～12 柴田	2 栄養摂取・消化機能障害をもつ対象が生活を再構築するための看護	1) 栄養摂取・消化機能障害が生活に及ぼす影響 2) 慢性肝炎・肝硬変を持つ対象への看護 (1) アセスメント (2) 看護目標 (3) 看護活動 3) 50歳代男性 肝硬変患者への看護			講義 GW (4h)
13～20 小山	3 代謝機能障害をもつ対象が生活を再構築するための看護	1) 代謝機能障害が生活に及ぼす影響 2) 糖尿病をもつ対象への看護 (1) アセスメント (2) 看護目標 (3) 看護活動 3) 40歳代男性 糖尿病患者への看護 4) SMBGを行う対象の指導			講義 GW (4h)
21～28 太田	4 内部環境調節障害をもつ対象が生活を再構築するための看護	1) 内部環境調節障害が生活に及ぼす影響 2) 慢性腎不全をもつ対象への看護 (1) アセスメント (2) 看護目標 (3) 看護活動 3) 60歳代女性 透析療法を受ける慢性腎不全患者への看護			講義 GW (4h)
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験(柴田:40点、小山:30点、太田:30点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 ⑤系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院 ⑥薄井坦子 ナースが視る病気 講談社 ⑦野並葉子 パーフェクト臨床実習ガイドⅡ慢性期・回復期・終末期〈第2版〉照林社				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	成人看護学援助論Ⅱ	担当講師	増子 真理江 齋藤 健 伊藤 喜美江		受講時期	1年生
			単位数 (時間数)	1 (30)		
【学習目標】						
1 健康状態の急激な変化によって生体が危機状態にある対象の特徴を理解し、生命の維持・悪化防止・苦痛の緩和を優先するための看護を学ぶ。 2 日常生活の自立・自律に向けた回復過程を支援する看護を学ぶ。 3 日常生活を再構築しその人らしい生活を営むための看護を学ぶ。						
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態	
1～6 増子	1 急性期にある成人の特徴と看護	1) 急性期とは 2) 急性期にある対象と家族の特徴 3) 侵襲的治療に伴う看護 4) 危機的状況にある対象と家族への看護 5) 家族への看護 6) 他職種との連携			講義	
7～14 増子	2 循環機能障害をもつ対象の看護	1) 循環機能障害が生活に及ぼす影響 2) 循環機能のアセスメント 3) 循環機能障害をもつ対象の治療・検査に伴う看護 4) 循環機能障害をもつ対象の看護活動 5) 40歳代男性 急性心筋梗塞患者への看護			講義 GW	
15～22 齋藤	3 脳・神経機能障害をもつ対象の看護	1) 脳・神経機能障害が生活に及ぼす影響 2) 脳・神経機能のアセスメント 3) 脳・神経機能障害をもつ対象の治療・検査に伴う看護 4) 脳・神経機能障害をもつ対象の看護活動 5) 50歳代男性 脳梗塞患者への看護			講義	
23～26 伊藤	4 障害がある人の生活とリハビリテーション	1) 障害がある人とリハビリテーション ①障害とは ②障害がある人と家族の認識過程 ③リハビリテーション看護の定義 2) 障害がある人の生活を支える看護 ①急性期の看護 ②回復期の看護 3) 家族の支援			講義	
27～28 伊藤	5 継続的な移行支援	1) 移行と移行支援 2) 移行支援が必要とされる背景 3) 療養の場の移行支援 4) 社会資源の活用と多職種の連携			講義	
29～30	筆記試験					
評価方法	講義終了後の筆記試験（齋藤：30点、増子40点、伊藤30点）					
教科書	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 ④系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 ⑤井上智子 パーフェクト臨床実習ガイドⅠ 急性期・周手術期〈第2版〉 照林社					
参考書	授業のなかで提示する					

授業科目	成人看護学援助論Ⅲ	担当講師	増子 真理江 工藤 郁美	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
手術療法を受ける対象の身体的・心理的・社会的な苦痛・不安・葛藤を理解し回復に向けた看護を学ぶ。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2 増子	1 周術期にある対象の特徴と看護	1) 周術期とは 2) 手術を受ける患者・家族の状況 3) 手術前の看護 (1) 意思決定 (2) 全身状態を整える (3) 患者教育・指導 (4) 形態変化や機能障害に対する適応への援助 4) 手術侵襲と生体反応 (1) 侵襲に対する生体反応 (2) サイトカインによる生体調節機構			講義
3～4 工藤	2 周術期の看護の実際	1) チーム医療と看護師の役割 2) 手術室の安全管理 3) 麻酔導入時の看護 4) 術後の患者のアセスメント 5) おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応 (1) 術後出血 (2) 循環器合併症 (3) 呼吸器合併症 (4) 消化器合併症 (5) 縫合不全 (6) 術後感染 (7) 精神・神経系合併症			講義
5～29 増子他	3 手術療法を受ける対象の看護過程	1) 全体像の把握 2) 看護の必要性の抽出 3) 看護計画立案 <事例> S状結腸がん(腹腔鏡下S状結腸切除術) 40歳代女性 急性期～回復期への移行期			GW
30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験(増子:30点) 看護過程は全体像の把握、看護の必要性の抽出、看護計画立案はグループ評価(30点)、全体像の把握、演習の参加態度は個人評価(40点)				
教科書	①系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 ②系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野成人看護学[5] 消化器 医学書院 ④系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 医学書院 ⑤系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 ⑥井上智子 パーフェクト臨床実習ガイドⅠ 急性期・周手術期(第2版) 照林社 ⑦看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	成人看護学援助論Ⅳ	担当講師	永山 恭子 渡 明美 増子 真理江	受講時期 単位数 (時間数)	2年生 1 (30)
【学習目標】					
予後不良となり死を迎える対象の心身の状態を理解し、QOLの維持・向上をはかり最後までその人らしい生活を送るための看護を学ぶ。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～2 永山	1 緩和ケアの歴史と発展	1) 緩和ケアの現状 2) 緩和ケアの理念 3) 緩和ケアの展望 4) 倫理的課題			講義
3～4 永山	2 緩和ケアにおけるチームアプローチ	1) チームアプローチの意義 2) チームアプローチにおけるメンバーシップ			講義
5～6 永山	3 緩和ケアの広がり	1) 緩和ケアの対象 (1) 非がん性疾患 (2) AYA世代のがん 2) 療養の場の広がり			講義
7～8 永山	4 家族のケア	1) 緩和ケアにおける家族看護過程 2) 家族ケアの方法 3) グリーフケアと遺族ケア			講義
9～12 永山	3 終末期の対象を支える看護	1) 終末期にある対象の特徴 (1) 全人的苦痛 (2) 死とともに生きること (3) 終末期にある対象のQOL			講義
13～18 渡		2) 身体的ケア 3) 精神的ケア 4) 社会的ケア 5) スピリチュアルケア 6) 化学療法を受ける対象の看護 (1) 化学療法を受ける対象の特徴 (2) 化学療法による日常生活への影響 (3) 主なケア			
19～28 増子		10) 50歳代男性 肺がん患者への看護			GW
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験(永山:40点、渡:30点) 看護過程の展開は評価表に基づき行う(増子:30点)				
教科書	①系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学[1] 医学書院 ④野並葉子 パーフェクト臨床実習ガイドⅡ慢性期・回復期・終末期〈第2版〉 照林社 ⑤系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 医学書院				
参考書 など	授業のなかで提示する				

授業科目	成人看護学援助論V	担当講師	増子 真理江 川原田 知恵	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 対象がセルフケアできるための学習支援を学ぶ。 2 ストーマ・ケアを学ぶ。 3 救命時に必要な援助を学ぶ。					
時間	主 題	学 習 内 容		学習形態	
1～16 増子	1 患者教育	1) 看護における学習支援 2) 看護における指導過程 3) 糖尿病患者の学習支援の実際 (1) 事例の全体像の把握 (2) 指導計画の立案 4) 指導場面のロールプレイング 5) 指導の評価 6) 自己血糖測定		講義 GW <10h> RP <2h> 演習 <2h>	
17～22 川原田 増子	2 ストーマ・ケア	1) ストーマ・サイトマーキング 2) ストーマ・スキンケア 3) ストーマ装具の選択と交換 4) ストーマ・ケアの評価		講義 演習	
23～30 増子	3 救命時に必要な看護技術	1) 一次救命処置 2) 二次救命処置 3) 救命場面のロールプレイング 4) 救命時の看護の評価		講義 GW 演習	
評価方法	各单元、看護計画立案・ケアの検討はグループ評価、演習の参加態度・レポートは個人評価を評価表に基づき行う。 患者指導技術(60点)、ストーマ・ケア(20点)、救命時に必要な看護技術(20点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 医学書院 ④系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 ⑤系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院 ⑥系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 ⑦系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学[1] 医学書院 ⑧系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術I 医学書院 ⑨井上智子 パーフェクト臨床実習ガイドI 急性期・周手術期<第2版> 照林社 ⑩看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア				
参考書 など	①改訂版 写真と動画で分かる一次救命処置 Gakken ②改訂版 写真と動画で分かる二次救命処置 Gakken				

授業科目	老年看護学概論Ⅰ	担当講師	田村 美幸	受講時期	1年生前期
				単位数 (時間数)	1 (15)
【学習目標】					
1 ライフサイクルにおける老年期にある人々の特徴を理解する。 2 高齢社会における現状と課題から、看護の目的・役割を理解する。 3 エイジングの多様性とポジティブな側面に目をむけることで高齢者観を深める。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1	1 老年看護のなりたち	1) 老年看護の発展 2) 老年看護の定義			講義
2~6	2 老年看護の対象	1) 老いるということ (1) 加齢と老化 (2) 身体的側面の変化 (3) 心理的側面の変化 (4) 社会的側面の変化 2) 老いを生きるということ (1) 老年期の定義 (2) 老年期の発達課題 3) 高齢者におけるセクシャリティ			高齢者疑似体験
7~10	3 高齢者の生活と健康	1) 高齢社会の統計的輪郭 (1) わが国の高齢化 (2) 高齢者のいる世帯 (3) 高齢者の健康状態 (4) 高齢者の死亡 2) 高齢者の生活 (1) 高齢者の暮らし(経済、住居) (2) 高齢者の健康と生活(健康意識、健康寿命、生活時間) (3) 老年期の日常生活力			講義 GW
11~14	4 老年看護の目的と役割	1) 老年看護の目的 2) 老年看護の場と役割 (1) 治療の場 (2) 療養生活の場 (3) 日常生活の場 3) 家族への看護 4) 老年看護に活用できる理論 (1) ケアリング (2) ナラティブ・アプローチ (3) サクセスフル・エイジング (3) コンフォート理論			講義
15	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 100点				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾病論 医学書院 ③国民衛生の動向 厚生統計協会				
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	老年看護学概論Ⅱ	担当講師	柴田 麻未 MSW 武田 耕一郎	受講時期	1年生後期
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 高齢者のヘルスアセスメントと健康な生活を送るための看護を理解する。					
2 高齢社会における高齢者保健医療福祉の現状と課題から、高齢者の生活を支えるケアシステムとその活用の仕方を理解する。					
3 老年看護における倫理的課題について考えることができる。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～16 柴田	1 高齢者のヘルスアセスメントと自立支援	1) 生命を維持する過程を整える 呼吸・循環・体温 2) 生活習慣を獲得・発展させる過程を整える (1) 食と栄養 (2) 排泄 ※骨盤底筋体操 (3) 清潔・衣 (4) 運動と休息 (5) コミュニケーション			講義 オムツ装着体験
17～22 MSW	2 高齢社会と社会保障	1) 高齢社会における保健医療福祉の動向 (1) 高齢者とソーシャルサポート (2) 保健医療福祉システムの構築 (3) 高齢者を支える職業と活動の多様化 2) 高齢社会における権利擁護 (1) 高齢者に対するスティグマと差別 (2) 高齢者虐待 (3) 身体拘束 (4) 権利擁護			講義
23～28 武田	3 高齢者の生活機能を高める	1) 生活機能のアセスメント (1) ICF の考え方 (2) 身体的 ADL の指標 (3) 手段的 ADL の指標 (4) 老研式活動能力指標 (5) 認知機能の指標 2) 老年症候群の発生・悪化予防 3) 生活リハビリテーション ※介護老人福祉施設に入所されている高齢者へ、老年期の特徴をふまえたレクリエーションを企画・発表			講義 GW 演習
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 90 点 (柴田：60 点、MSW：20 点)、レポート試験 (武田：20 点)				
教科書	①系統看護学講座	専門分野Ⅱ	老年看護学	医学書院	
	②系統看護学講座	専門分野Ⅱ	老年看護学 病態・疾病論	医学書院	
	③国民衛生の動向	厚生統計協会			
	④正木 治恵	パーフェクト臨地実習ガイド	老年看護	照林社	
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	老年看護学援助論Ⅰ	担当講師	武田 耕一郎 山口 麻琴 田村 美幸	受講時期	2年生前期
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 老年期にある対象の健康障害の特徴を理解する。 2 老年期にある対象の健康障害と症候に応じた看護について理解する。 3 終末期にある高齢者と家族のQOLを考え、人生をより豊かに終えることを支援するための看護を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～8 武田 山口 (4) 武田	1 老年期の健康障害の特徴と看護	1) 高齢者の健康障害の特徴 2) 健康障害が生活に及ぼす影響と看護 (1) 認知症 ①認知症の定義と分類 ②認知症の病態・診断・治療 ③認知症および生活機能の評価 ④認知症高齢者の看護 ⑤認知症高齢者と家族へのサポート (2) 皮膚疾患 ①老人性掻痒症の理解と看護 ②疥癬の理解と看護			講義
9～18 武田	2 老年期に特徴的な症候と看護	1) うつ 2) せん妄 3) 摂食・嚥下障害(胃瘻管理含む) (1) 嚥下体操 (2) PEG 4) 脱水 5) 低栄養			講義 演習
19～23 田村	3 高齢者のコミュニケーション障害と看護	1) 高齢者におこりやすいコミュニケーション障害 (1) 老人性難聴 (2) 失語症 (3) 構音障害 2) コミュニケーション障害のアセスメントと看護			講義 RP
24～28 田村	4 終末期における高齢者とその家族への看護	1) 老いと死 2) 高齢者の死にかかわる権利 3) 高齢者のエンドオブライフケア 4) 家族の悲嘆への援助			講義 GW
29～30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 100点(山口:15点、武田:65点、田村:20点)				
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 ③正木 治恵 パーフェクト臨地実習ガイド老年看護		医学書院 医学書院 照林社		
参考書	授業のなかで提示する				

授業科目	老年看護学援助論Ⅱ	担当講師	武田 耕一郎	受講時期	2年生
				単位数 (時間数)	1 (30)
【学習目標】					
1 老年期にある対象のADL障害に応じた看護について理解する。					
2 老年期にある対象の健康障害に対する診断・治療過程における看護を理解する。					
3 入院治療を受ける高齢者の看護過程を展開し、自立性を考えその人らしい生活に向けた看護を理解する。					
時間	主 題	学 習 内 容			学習形態
1～8	1 ADLに障害のある老年期の対象への看護	1) 運動器官の健康障害が生活に及ぼす影響と看護 (1) 骨粗鬆症 (2) 骨折 (3) 骨関節の炎症性疾患 2) 転倒 (1) 転倒の要因 (2) 転倒の影響 (3) 転倒予防と転倒時の対応 3) 廃用症候群の予防 (1) 廃用症候群になる要因 (2) 廃用症候群の症状 (3) 廃用症候群発生予防に向けた支援 (4) 廃用症候群の高齢者と家族への支援 (5) 褥瘡予防に向けた支援			講義
9～14	2 診断・治療過程における高齢者とその家族への看護	1) 検査を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 3) 放射線療法・化学療法を受ける高齢者の看護 4) 手術療法を受ける高齢者の看護 (1) 加齢と手術侵襲 (2) 高齢者に起こりやすい術後合併症と看護 (3) 高齢者の意思決定支援 (4) 術後の高齢者のQOL 維持・向上を目指した看護 5) 退院支援			講義
15～29	3 入院治療を受ける高齢者の看護過程	回復期における看護過程の展開 〈事例〉 心不全で入院した老年後期の女性 1) 対象特性を把握し看護の原則を明らかにする 2) 日常生活の規制とその意味を明らかにする 3) 生活体の反応を把握し全体像をつくりかえる 4) 看護上の問題を明らかにする 5) 看護師の夢を描く 6) 持てる力を最大限に発揮できる方向で看護計画を立案する			講義 個人 GW
30	筆記試験				
評価方法	講義終了後の筆記試験 50点	看護過程の展開は評価表を用いて評価 50点			
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 ③正木 治恵 パーフェクト臨地実習ガイド老年看護	医学書院 医学書院 照林社			
参考書	授業のなかで提示する				